

第7回「市長と話そうまち育てタウンミーティング」について（全体版）

- 1 日 時 平成27年2月6日（金）午後1時30分～2時30分
- 2 場 所 和賀地区交流センター
- 3 参加者 きたかみ巨木の会のみなさん 平賀 昭士会長ほか10名
- 4 市出席者 市長、齊藤都市整備部長、高橋文化財課長
（事務局）及川広聴広報課長、同課 高橋課長補佐、石田主任
- 5 懇談テーマ 巨木と人を育てる
- 6 懇談内容

これまでの活動や他の自治体の事例紹介を通じ、仙人峠の姥スギをはじめ、市内の巨木の保存や樹木医の配置など多岐にわたり懇談を行いました。

<はじめに～活動紹介>

市長：きたかみ巨木の会のみなさん、いつも活発な活動おつかれさまです。本日はタウンミーティングに申込みいただきありがとうございました。市民活動団体が普段どんな活動をしているか、市民のみなさんにはあまり知られていないということもあるので、こういった機会を通していかにみなさんの活動が市民生活に結びついているのかを発信したいと思います。また我々に対しても気付くところがあれば遠慮なくおっしゃっていただくようお願いします。

平賀会長：私たちは平成13年に会を結成し、現在の会員は70名です。市内50本の巨木ガイドブックを作成し、市内小中学校に配布するとともに地区などの活動で活用いただいています。その後も全国の巨木の保存の取組みの研究など活発に活動してきました。

<活動への支援について>

参加者：以前は緑化推進委員会から年間2万円の補助金をもらっていました。今後の活動への助成について伺いたいのですが。

市長：市民活動団体への補助金についてご説明します。当市では、北上市自治基本条例を核とした、北上市まちづくり関係条例に基づいて支出しています。一つは「地域づくり総合交付金」といって地域資源を発掘してそれを生かしたまちづくりを行っている各地域の活動に対して今年から今までの1.5倍の交付金を交付し、また市民活動団体に対しては「まちづくりチャレンジ補助金（注1）」といって毎年コンペ形式等で審査を行い、採択された事業に対して上限40万円を交付しています。みなさんの巨木のガイドブックの作成という事業についても公募の対象となるのでぜひ応募していただきたいと思ます。

注1 まちづくりチャレンジ補助金…

地域社会の課題解決や、地域活性化を図る市民活動、地域づくり活動、企業の地域貢献活動といった自発的な公益活動を応援し「協働によるまちづくり」を実現しようと

するものです。選考は「公共公益性」、「効果性」、「費用妥当性」、「協働性」、「発展可能性」の5つの視点に基づいて行い、採択された事業に対しては40万円を上限として補助を行います。

<http://www.city.kitakami.iwate.jp/bunya/shiminkatsudo06/>

<巨木マップ>

参加者：八戸市では「八戸の樹木めぐり」と題し、観光資源として詳細な保存樹木等のマップを作成してPRしていますが、北上市は桜が有名でもあることだし、四大エドヒガンザクラなどポイントを絞ってPRしてもよいのではないのでしょうか？

市長：きたかみ景観資産マップ（注2）のホームページを作成して公開していますが、方法としては自動車で移動しているといつ見過ごしてしまうような景観でも素晴らしいものは多いので、それらを集めてサイクリングマップやウォーキングマップを作成するなど色々ありますよね。例えば、稲瀬地区では地域の住民のみなさんが前述のまちづくり総合交付金を使ってマップを作りました。そのようなものが市全域で作成されれば観光客に喜ばれるのではないのでしょうか。見て触れ合えないと大切なものだと気付かないので、ぜひそういうコースの提案についてもお願いします。

注2 きたかみ景観資産

北上市では、地域の大切な景観資源とそれを守り、創り、育てるための活動を次世代へ残していくため、「きたかみ景観資産」認定制度を実施しています。平成26年度は1件の景観資産を認定し、計102件となりました。

きたかみ景観資産マップ <http://kitakamicity.jp/>

<仙人峠の姥スギ>（注3）

参加者：仙人峠の姥スギの保全についてどのように考えますか。

市長：みなさんのような団体の力が必要なのだと思います。みなさんは今後どのようにお考えですか。

参加者まだ倒れてはいませんが、いずれは倒れてしまいます。一昨年姥スギ2世を植樹しました。姥スギは手入れしていないこともあり、上から枝が枯れたり、ということもありますが、手入れにはお金が掛かるうえに、林の奥にあるので手入れが難しい現状です。

注3 仙人峠の姥スギ

和賀町山口の瀬畑から和賀川右岸沿いに岩沢・切留を通り久那斗神社奥宮のある仙人峠を越え、西和賀地方、秋田平鹿地方に達する古道があります。「秋田街道」とか「沢内街道」と呼ばれていました。奥州藤原氏の時代には、出羽仙北や西和賀地方から産出した金を平泉に運んだ道として伝承され「秀衡街道」とも呼ばれていました。

この仙人峠を越える目印となっていたのが、ひときわ目立つ姥杉でした。樹齢約900

年、樹高約30m、根本周り11.5mもあり、大人7、8人でやっと手が回るほどです。岩手県内でも有数の巨木です。

<保存樹木の指定>

参加者：市で保存樹木を指定していますが、指定された樹木が枯れるなどした場合は、新たに別の樹木を指定するものですか。

齊藤都市整備部長：地域から都市計画課にお申し出があれば緑のまちづくり審議会で審議のうえ指定しますが、指定されれば維持管理費の一部として年間上限2万円を補助することができます。お申し出は樹木所有者の承諾があれば団体でも個人でも構いません。

参加者：市長に一度、姥スギと面会してもらいたいです。実物は迫力があって感動しますよ。4月下旬にはカタクリやニリンソウなどの花も咲くので雪はあるがお勧めです。ハイキングコースですから一時間くらいで着きますよ。

市長：屋久杉はみたことがあるんですが。では、考えましょう。

平賀会長：屋久島の紀元杉は樹齢3000年に対し、姥スギは900年といわれていますが、果たして何年なのか実際のところは分かりません。鹿児島にある蒲生の大楠は多額の費用をかけて整備し、毎年樹木医が診断しています。また群馬県に巨木を視察に行きましたが、巨木に対する姿勢の違いに驚きました。企業がスポンサーとなり、緑の少年団を育成することで子どもの頃から自然に親しんでいます。

<樹木医について>

参加者：樹木医についてです。姥スギの保全だけでなく、樹木の育て方を指導してもらうなど、いろいろと協力してもらいたいことは多いのですが、市の職員で専門の方もいないだろうし、市民や市職員で農学部出身者などを樹木の専門家に育成することはできませんか。

齊藤都市整備部長：以前、住民の方からの依頼で県の農林センターの樹木医の方を紹介したことがあります。そのような形なら協力できると思います。

市長：残念ながら市では林業の専門家はいません。土木や建築についてはいるのですが。県にはいるだろうから依頼できるような関係を保っていきたいですね。また樹木医については緑のまちづくり審議会の中で登録することができないか検討してみます。